

平成 16 年 10 月 26 日 プリーフィング説明内容

以下は、平成 16 年 10 月 26 日におこなったプリーフィングにおける弊社会長 細谷 英二による説明内容です。

【平成 17 年 3 月期 中間決算・通期 業績予想修正について】

それでは、平成 17 年 3 月期 中間決算・通期 業績予想修正について説明をさせていただきたいと思います。なお、中間決算につきましては、改めて 11 月にご説明申し上げたいと思います。

まず最初に連結ベースの中間純利益については、1,150 億円の増益ということで、2,000 億円の中間純利益を予想しております。それから通期の連結ベースの純利益につきましては、同じく 1,150 億円の増益ということで、2,850 億円の純利益を予想しております。

それでは増益の理由等につきましてご説明したいと思います。貸出につきましては埼玉りそな銀行以外はまだまだ苦戦が続いておりますが、地域運営等によりましてフィービジネス等に対する取り組みが順調に成果を上げてきたということで、業務粗利益で 180 億円の増益、経費につきましても昨年来コスト削減に地道な努力を積み重ねてきておりますので、130 億円のコストカットということで、実勢業務純益で 310 億円の増益であります。

それから、株式関係損益ということで持ち合い株式等の解消によりまして株式の売却益 300 億円ということであります。それから今回の増益の太宗を占めているものは、昨年の 7 月、8 月にかけて厳格なデューデリをやりまして、その後、不良債権の処理を進めてきたわけではありますが、景気回復の基調等によりまして、債務者区分の上位遷移とか、新規の発生が少なくなったとか、あるいは資産デフレが止まったことによりまして、不良債権の処理コストが少なかったと、これは第一四半期の速報で申し上げたことの集積ではありますが、当初予定より 750 億円改善したと、少なく済んだということでございます。

それ以外に O B の年金減額によりまして O B の方が一時金を選択されたことで退職給付債務が不足したということで一部特別損失を計上いたしました。最終的に先程も申し上げましたように、1,150 億円の増益になりました。

通期につきましては、勿論、若干の上ブレの要素はありますが、業務粗利益等につきましては、貸出の未残等を何とか反転したいという高い目標を掲げていると、あるいは、今、システム統合を進めており、統合の内容が精査できた段階で、来年度に廃棄するシステムの処理の引当金を 200 億円強計上したいというような要素もあり、下期の収支につきましてはこれまでの収支計画を予定しております。最終的に通期見通しは先程申し上げましたように、2,850 億円ということで業績予想をさせていただいております。

それからまだ計数は精査中でありまして細目は来月の中間決算ということでありますが、不良債権の比率につきましては、昨年の 9 月末で 3.2 兆円の不良債権ということで 11.2% であったわけではありますが、この 3 月期に 1.9 兆円ということで 6.7% まで削減できたわけではありますが、今回の中間期で 1.3 兆円ということで 4.8% と、5% を切ることができました。旧行ベースで（14 年 3 月期で）10% 台だったと思いますので、所謂半減目標というのは半年前倒しで実現できたということでございます。

それから経費率につきましても、りそなグループで初めて 47% ということで 50% を切る

ことができました。ただ、下期は経費増の要素がございますので当初予定の 52%は実現できるとは思いますが、上期には 50%を切ったということでもあります。

自己資本比率につきましては精査中でありますので正確には申し上げることはできませんが 8%台に乗ったと思います。

以上が、今回の業績予想修正の概要でございます。

以 上